

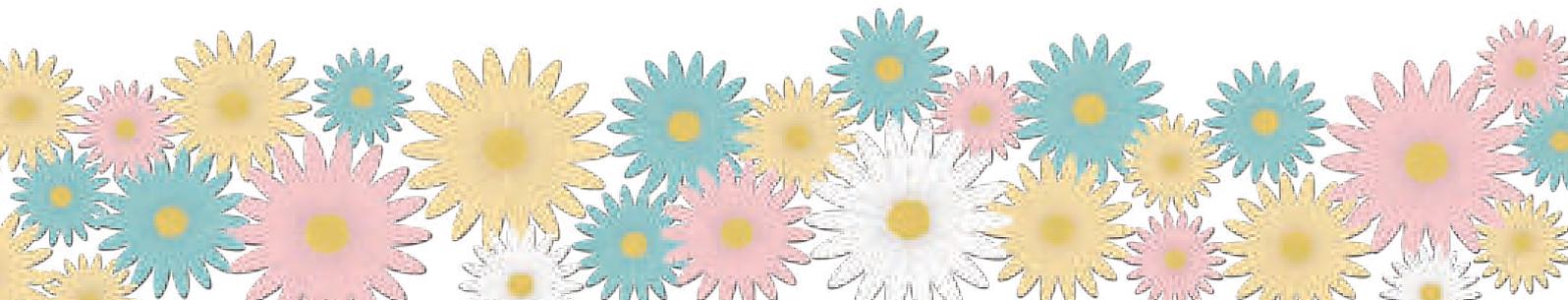
SDGs 報告書

2023年度の取り組み

— 誰も置き去りにしない社会の実現に向けて —



 生活協同組合 ララコープ。



ごあいさつ



生活協同組合ララコープ
代表理事理事長 山城 伸一

2024年元日に発生した能登半島地震では、家屋の倒壊や火災、津波などにより多くの人命が奪われる甚大な被害をもたらしました。また、2022年2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻が未だ解決の目途が立たない中、2023年10月に始まったイスラエルとパレスチナの軍事・政治組織ハマスとの軍事衝突では、女性や子どもを含む多くの市民が犠牲になっています。このような国内外の不安定な情勢に円安の影響も相まって電気・ガス、食料品などの値上げが続き私たちのくらしは厳しさを増しています。

これまで、私たち生協はその活動の原点である「ひとは万人のために、万人はひとりのために」を忘れずに、「平和とよりよい生活のために」を合言葉にララコープ「21世紀10のビジョン」の実現に向けて活動を続けてまいりました。

2015年の国連サミットで加盟国の全会一致で採択されたSDGs（持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals）」という言葉は、今では子ども達の学校の授業でも取り上げられる程に浸透してきました。日本生活協同組合連合会では、2018年より「コープSDGs行動宣言」を掲げ、SDGsの実現に向けて取り組みを進めています。ララコープもその一端を担うべく、行動宣言の実現に向け様々な社会的な取り組みを進めています。また、2023年11月の国連総会において2025年は2012年に続き2回目の「国際協同組合年」とすることが宣言されました。SDGsの実現に向けた生協の役割は今後も重要なものとなっています。

生協はその設立当初から助けあいの組織として、誰もが平和に暮らすことができ、持続可能な社会であることを目指して活動を続けてきました。その意味では、SDGsが提唱される以前より、生協の活動そのものがSDGsの目標実現につながるものであったと考えています。今回お届けするこの「SDGs報告書」では、この間のララコープの活動も含めてSDGsにつながる様々な取り組みを分かりやすく紹介しております。

ララコープの様々な活動は、組合員をはじめ役職員、お取引先、行政、他団体など、多くのみなさまのご協力のもとで進められてきました。ここに改めて感謝を申し上げます。今後につきましても、何かお気づきの点などございましたらご助言いただきますとともに、引き続きのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



ご挨拶・目次	1
ララコープの組織概要・事業内容	2
SDGsの推進	3
環境・リサイクル活動	5
エンカル消費	7
品質へのこだわり	9
地域へのお役立ち	11
平和への取り組み	13

ララコープは 1999 年 4 月に県内の 2 つの生協が合併して、長崎県民の暮らしを守るために設立され、今年で 25 周年となります。生協運動を通じて、くらしと生活の楽しみをお届けします。

「もっと イキイキ ひと まち ぐらし」

このコープメッセージはララコープが目指すものをわかりやすく表現したもので、人づくり、街づくり、くらしづくりと生協づくりをいっしょに進めていこうというアピールです。

「ララコープ」の『ララ (LaLa)』の由来

LIVE AND LIFE AMUSEMENT [生協を通じてくらしと生活の楽しみを届けたいとの願いを込めて…]の頭文字から取ったものです。(組合員投票で決まりました)

ララコープ概要

名 称	生活協同組合ララコープ	
設 立	1999 年 4 月 1 日	
事 業 高	242 億 8,042 万円 (2023 年度)	
出 資 金	89 億 811 万円 (2024 年 3 月末)	
組合員数	225,373 人 (2024 年 3 月末)	
理 事 長	山城 伸一	
職 員 数	1,306 人 (2024 年 3 月末)	
事 業 所	◎本部 (長崎県西彼杵郡長与町岡郷 1474 番地) ◎支所 (10 支所/北部支所、長崎西支所、長崎東支所、南部支所、諫早支所、大村支所、島原支所、五島支所、佐世保南部支所、佐世保北部支所) ◎店舗 (9 店舗/ララ新戸町、ララなめし、ララ矢上、ララあたご、ララ富の原、ララながよ、ララ花高、ララ日野、ララひうみ)	
関連会社	(有) ララ・サービス	

事業案内

共同購入便	食品・雑貨・季節の商品など生活必需品を毎週 1 回決まった曜日に配達します。
個人宅配便	商品を個人別にご自宅にお届けします。
ステーション	支所、店舗、地域のステーションで、配達日の午後に商品を受け取れます。
お 店	CO・OP 商品を数多く品揃えしてあり、組合員なら誰でも利用できます。
灯油配達	冬：11 月中旬から 3 月末まで (週 1 回) 夏：4 月から 10 月まで (月 1 回)
宅 配 便	全国カタログ (くらしと生協)、その他 (大型商品など)
お弁当宅配	安全安心のお弁当を週 3 日からお届けします。
CO・OP 共済	手頃な掛金で充実した保障、みんなで支え合い助け合うことを目的とした保障です。
保 険	がん保険や医療保険、傷害保険、自動車保険など多くの保険を取り扱っています。
住宅リフォーム	住まいの事ならなんでもご相談ください。ララコープ職員が窓口なので安心です。
葬祭斡旋	葬儀会社各社と提携し、組合員・ご家族の“もしものとき”にお役立ちします。
コープ車検	コープで安心の車検です。お気軽にお問い合わせください。
宅 配 水	安全安心のアクアクララを配達しています。

SDGs (持続可能な開発目標) の達成に向けて

目標1: 貧困をなくそう



- ・ユニセフお年玉募金
- ・子どもの未来アクションへの取り組み
- ・フードドライブ活動、子ども食堂への支援



目標2: 飢餓をゼロに

- ・レッドカップキャンペーン



目標3: すべての人に健康と福祉を

- ・ピンクリボン運動
- ・お買物送迎車



目標4: 質の高い教育をみんなに

- ・組合員活動 (学習会、産地交流など)
- ・書き損じハガキ回収キャンペーン



目標5: ジェンダー平等を実現しよう

- ・男女共同参画推進



目標6: 安全な水とトイレを世界中に

- ・コアノンスマイルスクールプロジェクト



目標7: エネルギーをみんなにそしてクリーンに

- ・太陽光発電パネル設置 (本部)
- ・太陽光発電施設 (PPA モデル) の設置 (ひうみ)



目標8: 働きがいも経済成長も

- ・ワークライフバランス推進
- ・障がい者雇用



目標9: 産業と技術革新の基盤をつくろう

- ・協同組合間の連携

ララコープSD



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

知っていますか？

SDGs

SDGs (エス・ディー・ジース / Sustainable Development Goals の略) とは、世界が抱える課題を解決し、ずっと先の未来まで持続可能な社会をつくるために、2015年9月に国連総会で採択された目標のこと。日本語では「持続可能な開発目標」と訳されています。

貧困や飢餓、環境やエネルギー、世界平和、教育、人権など、多岐に渡る分野を網羅する17の目標が掲げられており、先進国・発展途上国に関わらず、世界中の人々が協力して取り組むべき課題や行動計画を示したものです。

ララコープは、SDGs (持続可能な開発目標) に貢献することを約束(コミット)します。

SDGsの理念は「誰も置き去りにしない社会の実現」です。この考え方は、助け合いの組織として、誰もが笑顔で暮らせる、持続可能な社会の実現をめざし、さまざまな取り組みを進めてきた生協の活動とも重なっています。

「ララコープの10のビジョン」の実現に向けた取り組みがSDGs17の目標につながっています。また、ララコープは「長崎県SDGs登録制度」の登録事業者となります。

17



目標17: パートナーシップで目標を達成しよう

- ・ 包括連携協定
- ・ 地域における見守り活動の協定
- ・ 災害時などの物資支援の協定

16



目標16: 平和と公正をすべての人に

- ・ 平和を守る活動の推進
- ・ ピースアクション

15



目標15: 陸の豊かさを守ろう

- ・ 産直（産地直結）商品の開発と普及
- ・ FSC 認証商品の取り扱い
- ・ レインフォレスト・アライアンス認証商品の取り扱い

14



目標14: 海の豊かさを守ろう

- ・ MSC 認証、ASC 認証商品の取り扱い

13



目標13: 気候変動に具体的な対策を

- ・ 「2030年温室効果ガス削減計画」の取り組み
- ・ 省エネルギー設備（店舗）
- ・ 大気測定（組合員活動）

12



目標12: つくる責任 つかう責任

- ・ エシカル消費の推進
- ・ レジ袋削減、リサイクル品の回収
- ・ 長崎プラスチック4R宣言事業所に全事業所を登録
- ・ 食品ロスの削減

11



目標11: 住み続けられるまちづくりを

- ・ 地域見守り活動
- ・ 被災地支援活動

10



目標10: 人や国の不平等をなくそう

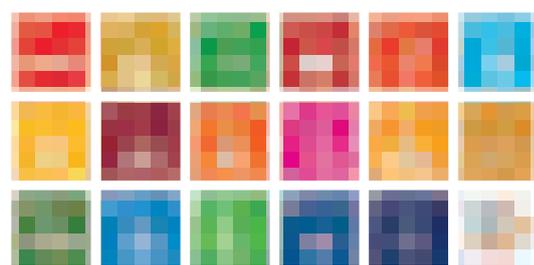
- ・ フェアトレード商品の取り扱い



SDGsの取り組み

1. 貧困をなくそう
2. 飢餓をゼロに
3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
5. ジェンダー平等を実現しよう
6. 安全な水とトイレを世界中に
7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに
8. 働きがいも経済成長も
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
10. 人や国の不平等をなくそう
11. 住み続けられるまちづくりを
12. つくる責任 つかう責任
13. 気候変動に具体的な対策を
14. 海の豊かさを守ろう
15. 陸の豊かさを守ろう
16. 平和と公正をすべての人に
17. パートナーシップで目標を達成しよう

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



01 環境負荷低減を目指して

循環型社会への貢献の取り組み

事業活動、商品、サービスから発生する環境影響の大きな項目について、技術的かつ経済的に可能な範囲で、環境目的・目標を設定し環境負荷の低減に努め事業と環境の連動強化を推進します。



地球温暖化防止自主行動計画の取り組み

2023年度は、引き続き供給高1億円当りのCO₂（二酸化炭素）排出量を原単位として管理し重点課題として取り組みました。

また、2030年のCO₂排出総量を2013年度比27%削減する目標を設定、その実現に向け行動計画を策定し取り組んでいます。2023年度末では、3.7%削減（達成率13.7%）という状況になっています。

・供給高1億円当りのCO₂（二酸化炭素）排出量の推移（単位：t-CO₂/供給高1億円）

	2021年度	2022年度	2023年度
供給高1億円当りのCO ₂ （二酸化炭素）排出量	21.0	21.4	21.3
CO ₂ 排出量（t）	4,985	5,008	5,118

・エネルギー毎の使用量 ※2023年度のカッコ内は、自家消費型太陽光発電量除外数値

	2021年度	2022年度	2023年度
電力使用量（kwh）	9,659,632	9,584,811	9,674,862
ガソリン使用量（ℓ）	374,930	442,068	496,941
軽油使用量（ℓ）	122,136	86,006	67,430
ガス使用量（m ³ ）	23,444	21,790	22,363

・本部太陽光発電（売電）の取り組み（2023年度）

発電予測値（kwh）	発電電力量（kwh）	達成率
193,000	227,119	117.7%

・フロンの使用と管理状況

法令に基づき3ヶ月に1回以上の簡易点検と年1回以上の定期点検を実施し管理を徹底しています。



売電型太陽光パネル設置
(2013年10月本部屋上)



自家消費型太陽光パネル設置
(2023年10月ララひうみ屋上)

リサイクル活動と食品廃棄物等の状況

(単位：t)

	2021年度	2022年度	2023年度
カタログ・新聞・古紙の回収状況	1,646	1,670	1,614
卵パック（A-PET）の回収状況	18	18	20
集品袋・カタログ包み袋の回収状況	28	27	27
トレイの回収状況	21	20	19
牛乳パックの回収状況	40	36	35
食品廃棄物等の発生量	130	132	166
上記食品廃棄物等からの堆肥への再資源化	47	45	43

カタログ・新聞・古紙の回収が全体の9割以上を占めており、組合員による定着した取り組みとなっています。



※ララコープは、長崎県と連携したプラスチック廃棄物の排出抑制及びリサイクルの取り組みを進めるために、2022年10月に「長崎プラスチック4R宣言事業所」として全事業所を登録しています。

環境保全の取り組み

・大気測定

「きれい」測定地点

測定地点	市町村
稲佐山公園パーキング	長崎市
長崎東支所前幹線道路	長崎市
長崎北部支所前幹線道路	長与町
五島市吉久木町	五島市
長崎市本原町	長崎市

「かなり汚い」「やや汚い」測定地点

測定地点	市町村
昭和町交差点	長崎市
中央橋交差点	長崎市
長崎市民病院前	長崎市

★毎年決まった日に大気測定をしています。

★この調査も31年目となり、今回は定点75か所のうち、昨年と比較して、二酸化窒素が減少した場所は42か所、上昇した場所は23か所、変化なしが5か所となり、全体的に「きれい」と判断される定点が多い結果となりました。



廃油回収の取り組み

・2024年3月より、ララ富の原で廃油回収を始めました。

各家庭で使用した廃食用油を回収し、アスファルト合材製造時の重油燃料として再利用しています。(バイオマス燃料として4割混合)

このことにより、地球温暖化の要因となっているCO₂の削減(約38%)につながっています。



レジ袋有料化&マイバッグ持参

・レジ袋が、2020年7月より有料化になりました。引き続きマイバッグ持参を呼び掛けています。店舗では、ララオリジナルのマイバスケットを購入しての利用を促しました。

・マイバッグ持参率の状況

2021年度	2022年度	2032年度
82.3%	82.1%	83.7%



エコチェックシートの取り組み

ララコープでは、環境活動の取り組みである「エコチェックシート」にたくさんの方が参加されました。

参加した人数 : 2,603名 (前年差△187人)

削減したCO₂ : 9,273kg (前年差+409kg)

02 誰かの笑顔につながるお買い物

エシカル消費

「エシカル (Ethical) 消費」とは、人や社会、地域、地球環境にも配慮したモノやサービスを選んで購入する消費行動のこと。

生協は「エシカル消費＝誰かの笑顔につながるお買い物」を積極的に勧めています。



エシカル消費対応商品の拡充「コープサステナブル」

コープ商品の中には、SDGs およびエシカル消費の取り組みをより一層発展させるため、環境や社会に配慮した主原料を使った商品に共通のロゴマーク「コープサステナブル」を付けてシリーズ化したものがあります。

こうした商品を”選んで使う”エシカル消費が「持続可能 (サステナブル)」な社会実現につながります。

コープサステナブル

共通ロゴの下部にメッセージを表示しています

～海の資源を守るシリーズ～



海の資源を守る

原材料の魚はすべて、持続可能 (サステナブル) であると認証された漁業で獲られた水産物を利用しています。

該当する認証

MSC、ASC、BAP、MEL、RFM

- CO・OP スモークサーモントラウト切り落とし
- CO・OP 塩紅鮭切身

～森の資源を守るシリーズ～



森の資源を守る

適切に管理された森林から生産された農林産物や再利用された紙資源を主原料としています。

該当する認証

FSC®、
レインフォレスト・アライアンス、
RSPO、エコマーク

- CO・OP コープヌードル
- CO・OP グリーンキーパー

～大地の力を活かすシリーズ～



Organic

農薬や化学肥料に頼らずに、土地の力を生かし、環境の負荷をできるだけ少なくする農法で作られています。

該当する認証

有機 JAS

- CO・OP 有機栽培ダーズリン (ティーバック)
- CO・OP 有機栽培レーズン

～リサイクル材使用シリーズ～



リサイクル材使用

製品本体で認証を取得し、かつ環境配慮や省資源につながる使い方・用途を提案しています。

対象となるマーク

エコマーク

- CO・OP 再生 PET 使用つめかえボトル



～アンゴラの子どもたちにやさしい学校を～



CO・OP コアノンロールシリーズを1パックお買い上げいただくごとに、アンゴラ共和国の「楽しく学べる環境づくり」のために1円が募金されます。先生の育成、安全な水やトイレの整備などに使われます。

CO・OP×レッドカップキャンペーン

対象のコープ商品を1点お買い上げいただくごとに1円が国連 WFP 協会に寄付され、支援先の子どもたちに学校給食を届けるために使われます。2023年度からの第4期はミャンマー連邦共和国への支援となっています。



飢餓から救う。
未来を救う。
WFP
国連世界食糧計画



ピンクリボン運動（9月～10月）に合わせて寄付

乳がん検査の必要性を啓発する団体「J. POSH」に協賛し、コープ化粧品1点お買い上げいただくごとに1円を寄付しています。ピンクリボン運動に合わせて、乳がんの早期発見、定期的な検診受診を啓発・推進する取り組みを応援しています。

フェアトレード

発展途上国の農産物や製品などを市場の価格で買い付けるのではなく、農家の生活が成り立つように考慮した「フェア（公正）な価格」で継続的に輸入し消費する取り組みです。

フェアトレードされたコープ商品が利用されることにより、途上国のくらしが支援されます。



てまえどり

店舗でお買い物をする組合員へ、商品を手前から利用していただく、「てまえどり」を推奨し、食品ロスの削減につなげています。



ノントレー

店舗ではトレーを使わずに、一部でノントレー商品の配置や真空包装機でのパック詰めに取り組みんでいます。



03 生産者と消費者がともに育む

品質への取り組み

ララコープでは、1999年の発足以来、「よりよいものをより安く」を合言葉に、組合員とともに商品の開発や改善に取り組んできました。

商品の安全性や品質の向上はもちろんのこと、産地を守り、生産者と消費者がともに成長していくための様々な取り組みを行っています。



品質保証システムの取り組み

ララコープでは「生協産直品質保証システム」での統一した基準で産地点検を実施し、生産から流通、販売までの各段階において組合員と約束した内容で栽培、流通が行われているかの確認をしています。公開点検会は農産物品質保証システムの適正規範に照らし合わせ、組合員・役職員・生産者が相互理解を深める事と交流を目的として開催しています。



公開点検会 in 松信農園

産直・じげもん商品開発認定会議

「産直品」と「ララじげもん商品」の開発・改善、「地域商品」の取り扱い認定をする機関です。開発や認定に必要な生産現場の確認や、生産者との交流を行います。2023年度は新たに産直品を4品、ララじげもん商品を10品認定しました。産直産地の現地視察では供給センター長崎（南島原市）でシャインマスカットやぶどうを栽培されている生産者（近藤さん）の圃場で交流を行いました。



供給センター長崎（産直ぶどう）
生産者との交流会

秋の収穫ふれあいまつり（ララフェスタ／ララコープ25周年記念）

生産者と組合員・役職員の交流と産直品やララじげもん商品の普及を目的に、毎年11月に「秋の収穫ふれあいまつり」を開催しています。2023年度は25周年企画として「ララフェスタ」の名称へ変えて開催しました。新型コロナウイルス感染症の影響で4年振りの実開催となりましたが、多くの組合員が家族で楽しく参加でき、また、一般の方も自由に参加ができる企画で毎年多くの来場者で賑わいました。



まつり会場の様子



品質への取り組み／産地交流・商品学習

毎年ララコープでは、組合員と生産者との産地交流や商品学習を行っています。

お米の学習会

新米の美味しい季節に島原食糧販売株式会社の協力のもと、お米の学習会を開催しました。お米の炊き方から学び、4種類のお米なつほのか、にこまる、しまねえんむすび、ななつぼし、の試食があり皆さん「美味しい！甘い！」など炊きたてのお米を試食しながら、お米のクイズ、質問などもあり、改めてお米について学習しました。



産直米しまねえんむすび生産者との交流

1990年から取り扱いを開始した「産直しまね」生産者が来崎されましたので交流を行いました。生産者やJA職員との意見交流、ララ店舗での試食販売など産直米しまねえんむすび案内を実施しました。



ロバート・シナー（通称：ボブさん）との交流

アメリカノースダコタ州の大豆・小麦生産者であるボブさんが組合員との交流を目的に来日されました。ボブさんとの交流は7年振りの開催でしたが、意見交流や店内での試食販売など組合員との交流を行いました。



04 誰ひとり取り残さないために

地域へのお役立ち

「誰ひとり取り残さない」というSDGsの理念を基に、高齢者や子ども、障害をもつ方など、支援を必要とする人々が安心して暮らせる地域社会の実現をめざします。

心ゆたかなつながりと助け合いの精神で、誰もが笑顔で暮らせるあたたかい社会の実現に向け、自治体や地域とも連携していきます。



子ども食堂・ひとり親生活困窮世帯への支援活動

ながさき子ども食堂ネットワークに加盟する長崎県内の子ども食堂 23 団体に対してララコープの取引先とも協力して食料品などの提供を行っています。2020 年度からは、財政的支援にも取り組んでいます。

また、長崎市内のひとり親家庭への総合支援事業「つなぐ BANK」にも協力しています。「つなぐ BANK」は長崎市内のひとり親家庭（児童扶養手当受給世帯）120 世帯程を対象に、2か月に1回食料品を提供し、希望者には法律相談なども行う総合的な支援活動です。ララコープも運営団体の一つとして、協力しています。

・2023 年度に支援した子ども食堂（23 団体）

長崎市（13）	佐世保市（7）	時津町（1）	長与町（1）	東彼杵町（1）
---------	---------	--------	--------	---------

・2023 年度に子ども食堂への支援にご協力いただいたお取引先

野菜・果物	野上青果、供給センター長崎、ながさき南部生産組合、長有研
お米	全農パールライス



ひとり親家庭への総合支援事業「つなぐ BANK」

フードドライブ活動

日本生協連「子どもの未来アクション」の一環として、組合員に「子どもの貧困問題」への理解と共感を広げ、一人ひとりが身近な活動に参加できる機会を作るとともに、地域で支援を必要としている子どもたちを支える活動をしている団体や、地域のつながりの中で子どもたちの育ちを見守り、支える取り組みの支援につなげることを目的にフードドライブ活動を行いました。



ララあたごでの取り組み

ララ元気ねっと

地域の人々の暮らしに役立つ活動を進める団体に対して、ララコープでは 2014 年度より支援を行っています。

2023 年度は 173 団体が承認され、地域で活動を行いました。今後も地域での活動を支援していきます。



ララ元気ねっと（レガリーノ）



ベスト消費者サポーター章

また、活動の成果が認められ、2023年5月には消費者庁より「ベスト消費者サポーター章」を受章しました。

自治体との協力・連携

これまで、長崎県内の7市3町と「災害時における物資提供に関する協定」を締結しています。また、2021年度には長与町と、2023年度には長与町社会福祉協議会との包括連携協定を締結しています。

2023年8月の台風7号接近の際には時津町からの要請に応じて避難所用の食料品の提供を行いました。また、この間の東日本大震災や熊本地震、2024年1月の能登半島地震、西日本豪雨、2019年台風19号被害、2020年7月豪雨災害、2021年8月の豪雨災害の際にも人的支援、物的支援、募金活動に取り組んでいます。



2023年8月 時津町に食料品を提供

お買物支援の取り組み

お買物送迎車は、2019年度からララコープの一部の店舗で運行を開始し、2021年からは全店舗（9店舗）で運行を開始しました。

週に1度、決まった曜日・時間帯にお店から車で片道約15分～20分圏内のお宅まで送迎を行い、買い物に行くことが難しい店舗周辺の組合員へのお役立ちを目指しています。また、2022年度からは組合員の要望に応じてララ日野、ララなめしで、2023年度からはララながよで車両の増台と送迎エリア拡大に取り組み、その他3店舗で週2回送迎の試験展開も開始しました。また、昨年10月にオープンしたララひうみでは、3台の車両が稼働しています。

ご高齢の組合員が多いですが、小さなお子様がいらっしゃる子育て中の組合員も利用されています。利用者からは「ドア to ドアだから助かる」「これから買い物が楽しみになる」と好評の声をいただいています。

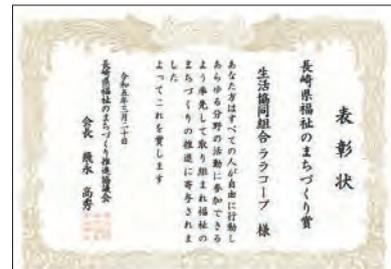
このお買物送迎車の取り組みは、活動部門で令和4年度「長崎県福祉のまちづくり賞」を受賞しました。



お買物送迎車



長崎県福祉のまちづくり賞表彰式の様子



地域の見守り活動

これまで長崎県と長崎県内の11市6町高齢者等の地域の見守り協定を締結して、県民が安心して暮らせる地域社会づくりに取り組んでいます。ララコープの各事業所では具体的な対応事例も発生しており、中には一人暮らしのご高齢の組合員の人命救助に至った事例もあります。

長崎県の「長崎県見守りネットワーク推進協議会（県内21市町、民間業者など50団体）」にも初期の頃より参加し、職員全体で見守り活動に取り組んでいます。



復興支援の取り組み

震災を忘れない、長崎からできる復興支援の取り組みとして、被災地で生産された商品を多くの組合員にお知らせし、“利用して支える”取り組みを進めました。2023年4月に「九州応援商品販売お知らせ活動」、2024年3月には「東北復興支援商品販売お知らせ活動」にララコープ全店で取り組みました。

3月27日から3日間、福島県の親子10組20名を長崎に招待し、青空の下でのびのび遊ぶ機会を提供する「福島の子ども保養プロジェクト～コヨット！ in ながさき2024～」を開催しました。参加者は、ハウステンボス、平和公園、原爆資料館、野母崎で遊び・学び・食し・交流し、様々なことを体験しました。



「福島の子ども保養プロジェクト～コヨット！ in ながさき2024～」の様子

05 暮らしの中心に平和を

平和とくらしを守る取り組み

被爆地の生協として、「安全・安心なくらしは、まずは平和であること」という考え方から、組合員とともに平和を考える様々な取り組みを行ってきました。

ピースアクションinナガサキ、被爆体験の公演、平和学習会、平和募金など、平和を考え、語り継ぐための様々な平和に関する取り組みを行っています。



ピースアクション in ナガサキ

「ナガサキ虹のひろば」に14生協390名と、ララコープから118名が参加しました。また、YouTubeでも608名が視聴しました。活水中学・高等学校吹奏楽部が素晴らしい演奏でオープニングを飾り、来賓として長崎市の鈴木市長とビデオメッセージで広島市の松井市長から挨拶がありました。日本原水爆被害者団体協議会の和田征子事務局次長からは「被爆地ナガサキの想いを世界に届けよう！」と題し講演があり「核で平和は来ない」と核兵器廃絶の実現に向けて団結を訴えました。その後、高校生平和大使の活動報告、子ども平和会議のアピール文の発表、平和企画検討委員会の活動報告など若い世代の活動報告が多くあり、核兵器のない平和な世界の実現に向けて希望をもたらすものとなりました。最後に長崎原爆被災者協議会の田中重光会長からは、被爆者は高齢化しているが、核兵器廃絶が実現するまで活動を続けていくとの強い想いをお話いただきました。フィナーレは長崎南山小学校のコーラス部が締めくくりました。



ナガサキ虹のひろばの様子

平和学習交流会

親子11組(大人11名、子ども16名/合計27名)が参加しました。三田村静子さんより平和の紙芝居「原爆と共に生きて～放射線の悪魔と闘った～」を講演いただき「原爆で生き残っても放射線の影響がいつまでも続く苦しみ、それは子や孫にまで影響がある。だから絶対に核兵器をなくさなければならない」と話があり、子どもたちに被爆の実相と原爆の恐ろしさ、平和な世界を実現することの大切さを伝えられました。活水高等学校平和学習部からは若者の平和への意識向上を図るため、身近なデジタルツールを使った平和活動に取り組んでいることが報告されました。立山防空壕では原爆が投下された当時のことを想像してもらいながら見学しました。グループ交流は工作をしながら参加した感想など意見交流を行いながらそれぞれが考える平和への想いを伝え合いました。



平和学習交流会の参加者

へいわの絵

今年度は、夏だけではなく1年を通して平和について考えてもらいたいという思いから秋に企画しました。2020年度のコロナ禍より始めた「へいわの絵」の取り組みは4回目となり対象年齢を広げ、より多くの人に見てもらえるように展示方法や会場選定などの工夫を重ねました。「へいわの絵」の目的である「平和について自由に絵を描くという参加のしやすさと、絵を見てもらうことで平和について考える機会をつくり想いを共有する」ことを果たすことができました。



ララあたごでの展示の様子

ユニセフ東ティモール指定募金

「ユニセフお年玉募金」として、公益財団法人日本ユニセフ協会の指定募金である東ティモール「新生児と母親のためのコミュニティ保健ケアの改善プロジェクト」（第4期：2023年度～2025年度）に取り組みました。医療従事者の研修、小児用医療機器の提供、母親支援グループの設立支援に役立てられています。今年度は12月4日～2024年1月19日の期間に取り組み、多くの組合員から募金が集まりました。

ユニセフ東ティモール指定募金	334万5,342円
----------------	------------



エルメラ県のグレノ保健センターにて、無事出産を終えた母親
(C) UNICEF Timor-Leste_2023

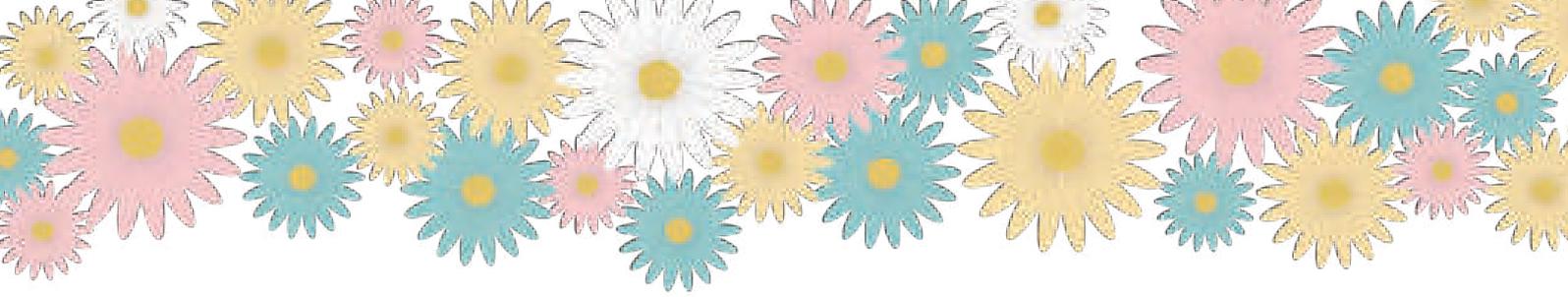
書損じハガキ回収キャンペーン

特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールドと公益財団法人日本ユネスコ協会連盟が進める「書損じハガキ回収キャンペーン」に取り組みました。換金された募金は、特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールドを通じてバングラデシュ、ベナン、ウガンダ、ブルキナファソの4か国の生活全般の向上や地域開発、アドボカシー、啓発活動、青少年育成の支援活動に役立てられます。公益財団法人日本ユネスコ協会連盟では「すべての人に教育を」を目標に展開している「ユネスコ世界寺子屋運動」を通じてカンボジア、ネパールでの識字教育・基礎教育の普及のために寄付されました。



卵を手に、誇らしげな住民の女性／ウガンダ

書損じハガキ回収キャンペーン (寄贈先、換金額)	NGO ハンガーフリーワールドへ	143万6,303円
	日本ユネスコ協会へ	135万6,650円



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ララコープは「長崎県SDGs登録制度」の登録事業者となります。長崎県ホームページから登録内容を確認することができます。以下の二次元コードからご覧ください。



ララコープのSDGsの取り組み詳細はホームページでも紹介しています。以下の二次元コードからご覧ください。



生活協同組合 ララコープ。

長崎県西彼杵郡長与町岡郷1474番地
TEL 095-887-0300 FAX 095-887-0656
URL <https://www.lala.coop>

本報告書の内容やララコープの活動などについて
ご意見・ご質問等ございましたら上記までお問い合わせください。

